

# 学励コース「医療専攻」たより

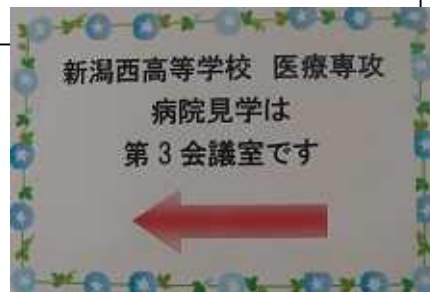


新潟県立新潟西高等学校 Vol.3 平成25年7月29日

医療業務に携わる人材(看護師・保健師・医療検査技師・診療放射線技師等)育成のための進学指導を行います。新潟大学医学部保健学科、新潟県立看護大学、新潟医療福祉大学、新潟青陵大学等の進学を目指します。

## 7月5日 新潟大学医歯学総合病院見学

1学期期末考査最終日、試験からの解放感をひきしめ直して、新潟大学旭町キャンパスへ向かいます。オープンキャンパス以外こうした高校生の見学は初めてという病院では、以下のようなプログラムを企画してくださいました。



- 1 全体会：オリエンテーション
- 2 グループ見学：外来1階 外来エントランス階 ヘリポート 病棟 12階ラウンジ  
海に見える図書館 西4階病棟
- 3 病棟内見学：看護師長さんによるナースルームや処置室、浴室などの案内とお話
- 4 看護師さんとの懇談
- 5 全体会：質疑応答

\* 外来エントランス階：広くゆったりとしたロビーが「災害拠点病院」の一言でガラリと変わって見えました。柱に埋め込まれた酸素の取入口など傷病者の受入れを想定した設備と体制になっています。災害への対応は病棟の廊下に収められた「非常用品」のキャビネットなど、随所に感じられました。



今、よろしいですか。

\* 12階で見せていただいたのがラウンジと「海に見える図書館」です。病院のスタッフから持ち寄られた図書とボランティアさんによる運営というあたたかみと共に眺望のすばらしさが患者さんの心を慰めてくれます。と、見下ろした私たちに見えたのは...!!「このドアから外へは特別な訓練を受けた人しか入れません」という説明でガラス越しに見た、その屋上で見学中の他グループではありませんか。一斉に上がるいいな!コールに案内の加藤看護師さんも根負け?

再び向かう屋上で強烈な印象を与えたのがドクターヘリ見学でした。

感想：病院は何となく怖くて寂しいイメージがあったのですが、全く違って、患者さんと家族の方がくつろげるような施設があり、食事の工夫がされていました。病棟ラウンジから一望する新潟市は絶景、新潟花火を見ることもできるそうです。

\*専用エレベーター前で遭遇したフライトナースさん、背には「Nurse NigataUniv.」のロゴも凛々しいつなぎの制服でいつでも出動OKです。カートに積んだバッグにも、機内にも限られたスペースを最大限に生かして収納された機器や薬品などで一杯でした。操縦整備に2人、ドクターとナース各1人の4人1チームですから、瞬時にすべての判断と処置ができる経験と訓練が必要です。



柵のない屋上、みんな気をつけて！



一斉にカッコイイ~!の声。



収納のお手本です。



\*院内を歩きながら説明もいただき、実感もしたのが本当はたくさんのスタッフが働いているということです。「チーム医療」という言葉は知っていましたが、皆がめざす看護師や臨床検査

技師はもちろん薬剤師や栄養士、機能ごとの作業療法やリハビリ、高度化する機器を扱う技士、またクラークもメッセンジャーも清掃の方も、そして病院と外の社会をつなぐソーシャルワーカーまで多様な職種の人々がチームとして患者さんを支えているのです。

\*中でも「患者さんに一番近い存在」であることに意義と誇りをもっていらっしやると感じたのが看護師さんとの懇談でした。小さなテーブルを囲んで「何でも聞いてね」という優しいお言葉に甘えて看護師としての歩みや、現在のお仕事の様子など質問が飛び交いましたが、「1日として同じ日はない」だから面白い、というひと言がありました。だから大変であり難しいであろう職業のやりがいとしてとらえていらっしやる笑顔が印象的でした。「一番近い」だけに患者さんの個人的な面にまで深く関わることについては、プロとしての倫理観をもって「目と耳と心」で聞き分けるときっぱりとおっしゃいました。

感想：点滴台を引きながら歩いている患者さんに多くの看護師さんが声をかけ、「ゆっくりでいいですよ」と安心させていたのでこれが大切なコミュニケーション力なんだと改めて思いました。



院内を歩きながら「この反対側が外来受付」と言われたように、新潟県医療の中枢を担う大病院の、普段は見ることのできない裏側、内側を見せていただく貴重な体験となりました。後進のためにというお気持ちだけでこの見学を実現させてくださった笠井看護師さんはじめ皆さんに感謝しつつ、また一歩志を深めることができたと思う21人なのでした。

各階の機材の配置・器具の収納など一律になっていて、別病棟のスタッフでもすぐにわかるよう工夫されているそうです。



#### 感想：

看護師さんの話の中で『倫理観』という言葉がたくさん出てきた。やはり人として相手の気持ちを考えることは大切だと改めて感じた。

今回の病院見学を通してわかったのはルールが徹底されていることです。命にかかわる現場なので、細かいことまでルールがあるのに驚かされました。そんな現場の中で毎日働き、人を救っている彼らはとてもかっこよく見えました。どんな形であれ、自分もその中の1人になりたいです。

「学生だった頃は退院することがゴールだと思っていたが、今は退院後のこともしっかり考えなければならないと思うようになった。(4年目看護師さん)」という言葉が印象的、治療する側がされる側に立って考えるという事だと思った。

「患者さんに一番近いのだから、何が必要なのか一番知っていかなくてはならない」という言葉がありましたが、いくら近い場所においても患者さんが必要としていることに気がつけなければ意味がないので、相手の気持ちを考えることがとても大切だと思いました。

高校生として必要なのは、勉強はもちろん、多様な世代の人と話すことができるコミュニケーション能力、人の意見を聴き、自分の意見をもってそれを主張できること、いろいろなことに興味を持つことということもわかりました。どれも今の自分には十分にできない部分が多いので、少しずつ改善していきたいと思いました。

院内を案内してくださる看護師さんは常に笑顔で、とても気さくそうな感じがしました。看護師という職業は、患者さんの治療とともに信頼関係を築き、話をしっかり聞いてあげることができなくてはいけないと思いました。

とても密度の濃い時間を過ごすことができた。

\* 「看護師は(走ることはできないので)常に早歩き」というお話もありました。右の写真、小さく見えるのが案内してくださる笠井さんのお背中です。きよろきよろしていると置いて行かれそうでしょうか？最後にご挨拶をしてふとふり返ると既に早足で…。ほんとうにお忙しい中をありがとうございました。

